



大槌町



防災マップ

安全・安心なまちづくり

保存版



防災マップを使用する上での注意事項について

・本防災マップで使用している基図は、平成28年1月時点での大槌都市計画図およびゼンリン住宅地図大槌町を基に作成しております。

・浸水想定区域及び浸水深は、東日本大震災以前に、岩手県の作成した下記データを使用しております。

【小槌川浸水想定区域図シェイプデータ(平成18年岩手県作成)】

【大槌川浸水想定区域図シェイプデータ(平成20年岩手県告示)】

・土砂災害警戒区域、土砂災害特別警戒区域及び土砂災害危険箇所は、下記データを使用しております。

【土砂災害警戒区域シェイプデータ(平成28年度末時点岩手県告示)】

【土砂災害危険箇所シェイプデータ(平成12年岩手県調査)】

・本防災マップでは、東日本大震災津波における、津波浸水実績を示しております。

※浸水想定区域及び浸水深は、現在の地盤高や地形で想定したものではありませんので、ご注意願います。

※土砂災害警戒区域、土砂災害特別警戒区域及び土砂災害危険箇所は、復興に伴う土地改変による影響等を全て考慮しているものではありませんので、ご注意願います。

※マップに示されていない区域においても浸水が発生したり、想定よりも浸水深が大きくなる場合や、がけ崩れ等が発生する場合があります。

※今後、町の地盤高や地形等を考慮し、改めて岩手県により洪水浸水想定区域及び津波浸水想定区域が公表された場合、並びに土砂災害警戒区域等の指定及び基礎調査結果が公表された場合、再度防災マップを更新する予定です。

町民のみなさまへ

みなさん一人ひとりが防災の主役

災害への備えは大丈夫でしょうか？近年日本各地で、これまでの常識を超える大規模な災害が発生しています。

本町でも平成23年の東日本大震災では甚大な被害が発生し、私達に多くの教訓をもたらしました。また近年では全国各地での集中豪雨に伴う大災害が頻発しており、本町でも平成28年8月の台風10号による豪雨などにより大きな被害が発生し、土砂災害の恐ろしさについても改めて痛感させられているところです。

そこで、町では、町内における土砂災害危険箇所や避難場所、防災情報等を掲載した「防災マップ」を作成しました。

突然やってくる災害から皆さんの生命を守るため、町では防災対策の充実に努めているところですが、被害を最小限に食い止めるには家庭や地域、職場などでの日頃からの防災対策が最も重要です。

ぜひ、ご家庭などの目の付くところに、この防災マップを備えて、皆さんで災害予防対策にご活用ください。

大 槌 町

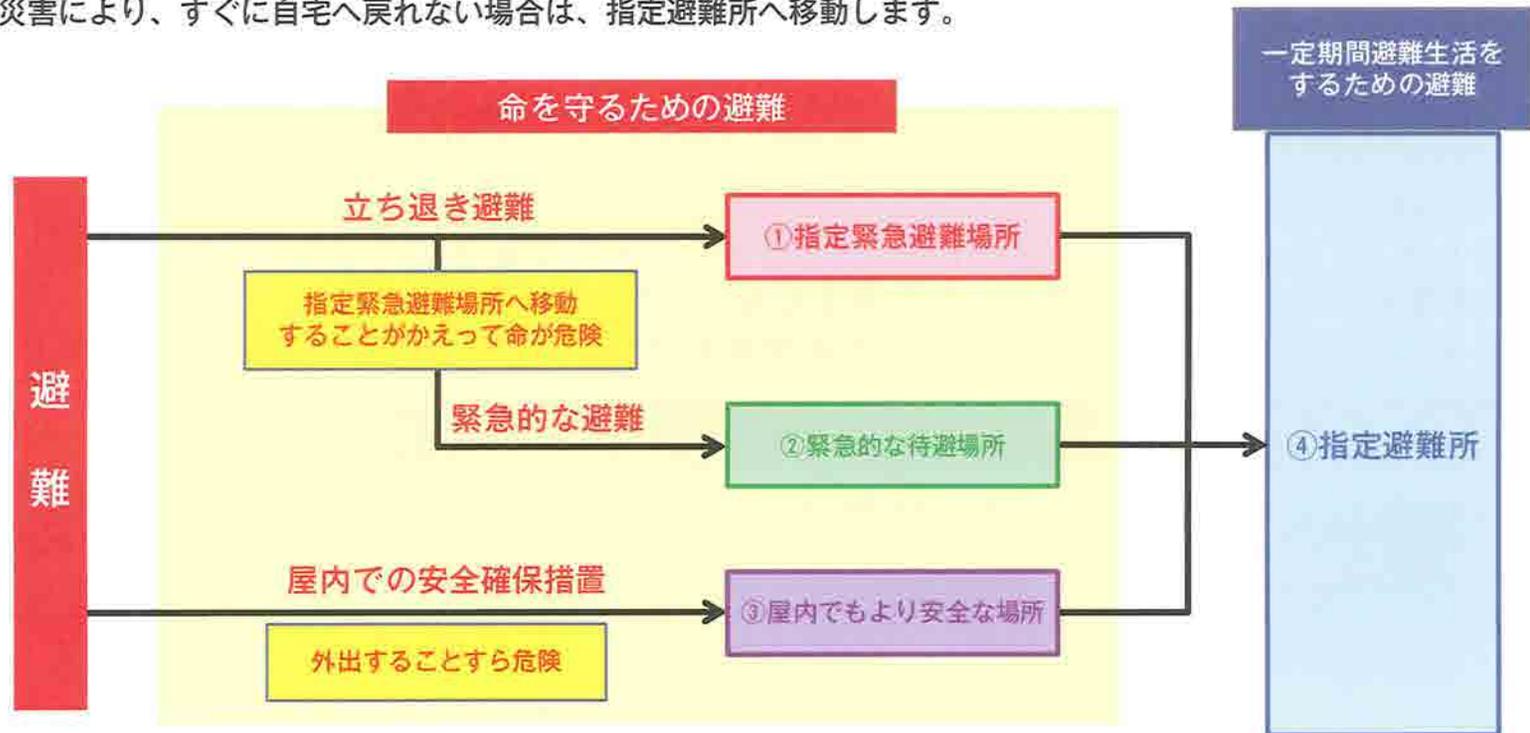
索 引

町民のみなさまへ・索引	1	わが家の防災対策&チェック	9
避難行動の種類、避難情報について	2	わが家の「防災・緊急情報」メモ	10
風水害対策	3	町指定緊急避難場所一覧	11
土砂災害警戒区域等 ・土砂災害の種類	4	町指定避難所・福祉避難所一覧	12
洪水ハザード情報について	5	大槌町全体図	13・14
非常時持出品の準備&チェック	6	大槌町防災マップ1~10	15~34
津波対策(1)	7	防災情報の伝達ルート等	裏表紙
津波対策(2)	8		

避難行動の種類（安全確保行動）

ポイント

- ①「立ち退き避難」は、指定緊急避難場所へ移動することが原則です。
- ②指定緊急避難場所へ移動することがかえって命に危険な場合には、「緊急的な避難」をとってください。
- ③外出することすら危険な場合には、「屋内での安全確保措置」をとってください。
- ④災害により、すぐに自宅へ戻れない場合は、指定避難所へ移動します。



避難情報について

避難情報の違いを知っておきましょう

広報車・防災無線・テレビ等を通じて市区町村が出す避難情報には、状況によって違いがあります。

情報の種類	発令時の状況	住民に求める行動
避難準備・ 高齢者等避難開始	<ul style="list-style-type: none"> ●避難をするのに時間のかかる避難行動要支援者は、避難を始めなければならない状況です。 ●人的被害が発生するおそれが高まっている状況です。 ●台風や大雨等が夜中に接近・通過することが予想される場合等に発令します。 	<ul style="list-style-type: none"> ●今後の気象情報に注意を払い、避難の必要について考えてください。 ●高齢者、病人、障がい者などの方は支援者とともに安全な場所へ早めの避難を始めてください。 ●非常時持ち出しを用意するなどいつでも避難できるように準備してください。
避難勧告	<ul style="list-style-type: none"> ●通常の避難ができる方についても、避難を始めなければならない状況です。 ●人的被害が発生するおそれがさらに高まっている状況です。 ●「土砂災害警戒情報」もしくは、「記録的短時間大雨情報」が発表された場合や土砂災害前兆現象が発見された場合、及び、河川水位が氾濫注意水位、避難判断水位を超過した場合もしくは超過するおそれが極めて高い状況にある場合等に発令します。 	<ul style="list-style-type: none"> ●できるだけ早く安全な場所に立ち退き退避をしてください。(指定緊急避難場所や親族宅など災害のおそれのない安全な場所) ●立ち退き避難が困難とされる場合には、屋内でも上階の谷側に退避してください。
避難指示 (緊急)	<ul style="list-style-type: none"> ●災害の前兆現象の発生や切迫した状況から、人的被害が発生するおそれが非常に高まっている状況、または実際に人的被害が発生した状況です。 ●近隣で土砂災害及び洪水被害の発生を確認した場合や、河川水位が氾濫危険水位を超過した場合もしくは超過するおそれが極めて高い状況にある場合、また、避難が十分でなく、再度の立ち退き避難を警告する場合等に発令します。 	<ul style="list-style-type: none"> ●避難中の方は確実に避難を完了してください。 ●いまだに避難していない方はただちに安全な場所へ避難を始めてください。 ●避難の時間的な余裕がない場合は生命を守る最低限の行動をしてください。
自主避難	<ul style="list-style-type: none"> ●災害の危険が迫っていると自ら判断した場合の避難となります。早め早めの避難を心がけましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ●必要に応じて地域の避難所などに避難してください。 ●避難中の食事や生活必需品はご自分で用意してください。

風水害対策

大雨や強風はわたしたちに何度も大きな災害をもたらしています。
ふだんから気象情報に十分注意し、避難の際もみんなで協力しましょう。

大雨情報をキャッチ！ こんなときのわが家の安全対策。

まずは、
確実な情報が大事
その次に迅速な対応



強風注意報・暴風警報

強風注意報：
平均風速が10m/sと予想される場合
暴風警報：
平均風速が20m/sと予想される場合

大雨注意報

大雨により土砂災害や浸水害が発生
するおそれがあると予想される場合。

大雨警報

大雨により重大な土砂災害や浸水害が発
生するおそれがあると予想される場合。

大雨特別警報

数十年に一度の大雨となるおそれが
大きい場合。

・降水量が警報基準を大きく超えるような大雨

上記以外に「記録的短時間大雨情報」があります。(1時間雨量が100mm以上)
「特別警報が発表されない」は「災害が発生しない」ではありません。
これまでどおり注意報、警報、その他の気象情報を活用し、早めの行動をとることが大切です。

雨の強さと降り方

(1時間雨量:mm)

10以上~20未満	20以上~30未満	30以上~50未満	50以上~80未満	80以上~
雨の音で話し声がよく聞き取れない。	ワイパーを速くしても見づら い。側溝や下水、小さな 川があふれる。	山崩れ、がけ崩れが起きや すくなり危険地帯では避 難の準備が必要。	マンホールから水が噴出す る。土石流が起こりやすい。 多くの災害が発生する。	雨による大規模な災害の 発生するおそれが強く、厳 重な警戒が必要。

風の強さと吹き方

(平均風速:m/秒)

10以上~15未満	15以上~20未満	20以上~25未満	25以上~
風に向かって歩きにくくなる。 傘がさせない。	風に向かって歩けない。 転倒する人もいる。	しっかりと身体を確保しないと 転倒する。風で飛ばされた物で 窓ガラスが割れる。	立ってられない。 屋外での行動は危険。 樹木が根こそぎ倒れはじめる。

台風

- 日本には毎年多数の台風が接近あるいは上陸し、たびたび大きな被害をもたらします。
- 台風の接近が予想される際は、台風情報に十分注意し、被害のないように備えることが必要です。

大きさ	風速15m/s以上の半径	強さ	最大風速
大型(大きい)	500km以上800km未満	強い	33m/s以上44m/s未満
超大型(非常に大きい)	800km以上	非常に強い 猛烈な	44m/s以上54m/s未満 54m/s以上

集中豪雨

- 集中豪雨は、限られた地域に、突発的に短時間に集中して降る豪雨で、梅雨の終わりごろによく発生します。
- 発生の予測は非常に困難で、中小河川の氾濫、土砂崩れ、がけ崩れなどによる大きな被害をもたらすことがありますので、気象情報に十分注意し、万全の対策をとることが必要です。
- ラジオやテレビなどの気象情報に注意する。
- 町や防災関係機関の広報をよく聞いておく。
- 停電に備え懐中電灯や携帯ラジオを用意する。
- 非常時持出品を準備しておく。
- 早く帰宅し、家族と連絡を取り、非常時に備える。
- 飲料水や食料を3日分確保しておく。
- 浸水に備えて家財道具は高い場所へ移動する。
- 危険な地域では、いつでも避難できるように準備をする。

つねに気象情報には、
注意して
おきましょう！



地下道(アンダーパス)に注意!

アンダーパスとは、道路や鉄道など立体交差する場合、その下を通る地下道をいいます。大雨・洪水などにより、アンダーパスの道路は真っ先に浸水してしまいます。地域のアンダーパスの場所を把握し、もしもの時に備えて迂回路を想定しておきましょう。普通自動車の場合、約30cmの浸水で走行困難になります。

土砂災害警戒区域等

土砂災害警戒区域

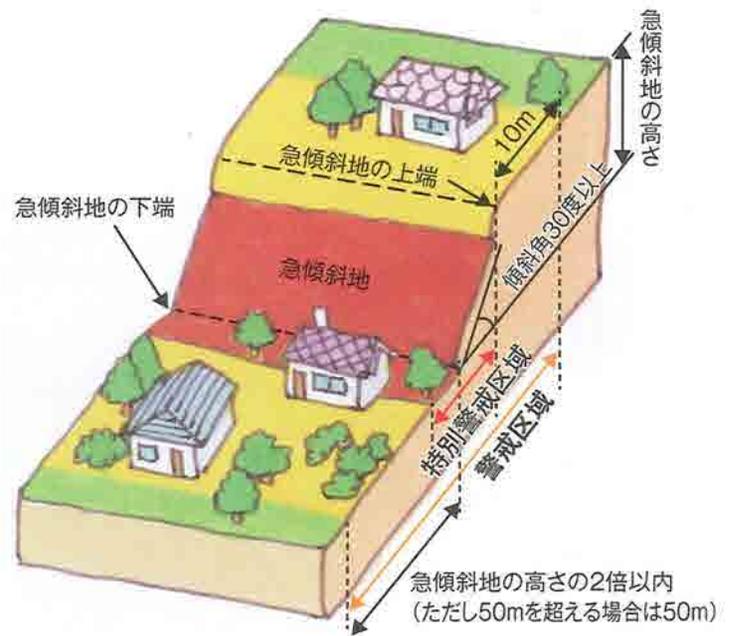
○土砂災害警戒区域は、「土砂災害が発生した場合、住民の生命又は身体に危険が生じるおそれのある区域」です。地図ページでは次のとおり表しています。

-  土砂災害警戒区域（土石流）
-  土砂災害警戒区域（急傾斜地）

土砂災害特別警戒区域

○土砂災害特別警戒区域は、「土砂災害が発生した場合、建築物に損害が生じ、住民に著しい危害が生じるおそれのある区域」です。地図ページでは次のとおり表しています。

-  土砂災害特別警戒区域（土石流）
-  土砂災害特別警戒区域（急傾斜地）



土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域のイメージ（急傾斜地の崩壊）

土砂災害の種類

がけ崩れ

地中にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、雨や地震などの影響によって急激に斜面が崩れ落ちることをいいます。がけ崩れは突然起きるため、人家の近くで起きると逃げ遅れる人も多く、大きな被害となります。



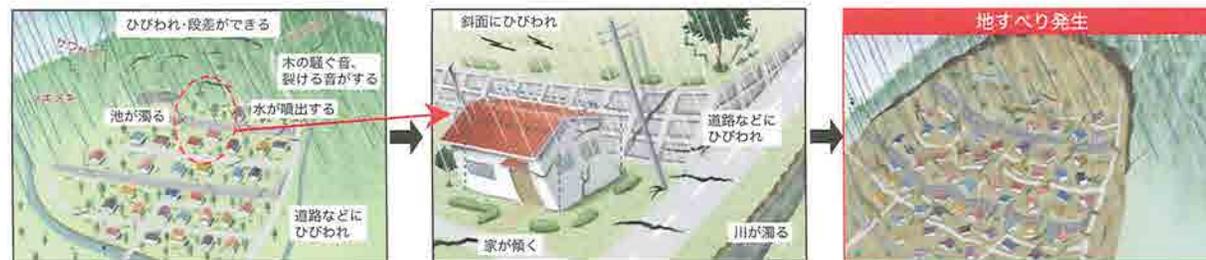
土石流

山腹・川底の石や土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流されることをいいます。その流れの速さは規模によって異なりますが、時速20～40kmという速度で一瞬のうちに人家や畑などを壊滅させてしまいます。



地すべり

斜面の一部あるいは全部が、地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する現象のことをいいます。一般的に大量の土の塊が移動するため、甚大な被害を及ぼします。また一旦動き出すと、これを完全に停止させることは非常に困難です。



・土砂災害警戒区域以外の箇所でも土砂災害の発生する可能性がありますので、自分の住んでいる家の周辺の斜面や溪流、避難場所などをよく確認しましょう。また、前兆現象は、すべての場合において必ず起きるとは限りません。

土砂災害の危険度参考情報については、岩手県土砂災害警戒情報システム (<http://sabo.pref.iwate.jp/>) で、リアルタイムに確認することができます。

洪水ハザード情報について

水防法に基づき、洪水ハザード情報をマップに掲載しています。
以下の情報を参考に、洪水時における対応についてあらかじめ確認しておきましょう。

1 説明

- 「大槌町防災マップ」に表示している大槌川及び小槌川の水位周知区間について、水防法の規定により指定された浸水想定区域及び浸水した場合に想定される水深を表示したハザード情報です。
- この浸水想定区域などは、指定時点の河道の整備状況を勘案して、氾濫した場合の状況をシュミレーションにより予測したものです。
- この防災マップをご使用の際は、支川の氾濫、想定を超える降雨、内水による氾濫等を考慮していませんので、この浸水想定区域に指定されていない区域においても浸水が発生する場合や想定される水深が実際の浸水深と異なる場合がありますので十分注意しましょう。

- 浸水ランクの目安 想定した大雨の規模(流域の2日間雨量258.7mm)

2.0~5.0m 未満の区域	2階の軒下まで浸水する程度
1.0~2.0m 未満の区域	1階の軒下まで浸水する程度
0.5~1.0m 未満の区域	大人の顔までつかる程度
0~0.5m 未満の区域	大人の膝までつかる程度



2 洪水情報の種類

洪水の危険性が高まった際に発表される情報

洪水注意報(気象庁)

- 洪水によって災害が発生するおそれがある場合、その旨を注意して行う。

洪水警報(気象庁)

- 洪水によって重大な災害が発生するおそれがある場合、その旨を警告して行う。

水位周知を行う河川

- 大槌川や小槌川については、避難判断水位、氾濫危険水位が設定されています。これらの水位に達した場合、知事は関係市町村やマスコミを通じてお知らせします。

3 避難時の注意点

①安全で動きやすい服装を

- ・ヘルメットやずきん等で頭を保護する。
 - ・裸足で避難しない。脱げにくい運動靴で避難する。
- ※長靴は水が溜まると動きにくくなるのではない!

②足元に注意

- ・水の深さに注意する。
- ※歩行可能な水深は一般的に男性70cm、女性50cm。水の流れる場合はさらに注意が必要!
- ・水があふれたときは、マンホールや側溝、石などが危険。杖や長い棒で進行方向を確認しながら歩くようにしましょう。

③隣近所で声を掛けあって避難

- ・単独行動はしない。
- ・はぐれないようロープで互いの体を結んで流されないようにしましょう。

④要配慮者の安全確保

- ・病人や高齢者などは背負って避難する。
- ・子供は大人が手をつないで避難させる。その際、浮き袋を付けるようにしましょう。

非常時持出品の準備&チェック

いざというときすぐに持ち出せるように、日ごろから準備・点検しておきましょう。

非常時持出品(例)

事前に準備出来ているか、チェック✓しましょう。

携帯ラジオ



- ラジオ
- 電池(多めに用意)

救急医療品



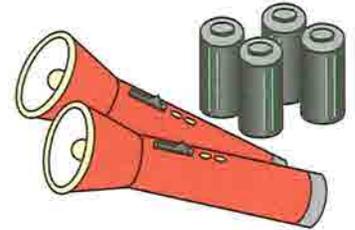
- 持病薬
- 絆創膏
- 傷薬
- 包帯
- 風邪薬
- 胃腸薬
- 鎮痛剤

貴重品



- 現金
- 預金通帳
- 印鑑
- 免許証
- 健康保険証
- 権利証書

懐中電灯



- 懐中電灯(出来れば一人にひとつ)
- 電池(多めに用意)

非常食品



火を通さずに食べられるもの、食器など

- カンパン
- 缶詰
- 非常用食品
- ミネラルウォーター
- 缶切り
- 栓抜き
- 紙皿
- 紙コップ
- 水筒
- 割箸等

その他



- 衣類(下着・上着など)
- タオル
- 生理用品
- 粉ミルク
- 離乳食
- 紙おむつ
- ウェットティッシュ
- 雨具
- ヘルメット
- ライター
- ラップフィルム
- 防災マップ(本書)
- (止血や食器にかぶせて使う)
- 防寒具(時季による)

非常時用備蓄品(例)

災害復旧までの数日間(最低3日)を生活できるようにチェック✓しましょう。

飲料水



- 飲料水としてペットボトルや缶入りのミネラルウォーター(1人1日3リットルを目安に)
- 貯水したポリタンクなど

非常食品



- お米(アルファ米も便利)
- 缶詰・レトルト食品
- 梅干し・調味料など
- ドライフーズ・チョコレート・アメ(菓子類など)

燃料



- 卓上コンロ
- ガスボンベ
- 固形燃料

その他



- 生活用水(風呂・洗濯機などに貯水)
- 毛布・寝袋・洗面用具・ドライシャンプーなど
- 調理器具(なべ・やかんなど)
- バケツ・各種アウトドア用品など

非常時持出品は定期的に点検を!

避難生活が長引くときに便利なもの

携帯トイレ、使い捨てカイロ、裁縫セット、ガムテープ、地図、さらし、筆記用具(マジックなど)、スコップなど。



阪神・淡路大震災で役に立ったもの

ポリタンク、ホイッスル、予備の眼鏡・補聴器、ビニールシート、新聞紙、補助用具としてロープ、スコップ、ボールやハンマー、のこぎり、車のジャッキなど。

非常時持出品は、使用するとき支障のないように、定期的に点検しておきましょう。とくに食品や飲料水の賞味期限は早めにチェックし、賞味期限がせまったものから順に入れ替えておきましょう。

津波対策(1)



津波から命を守るためには、「強い揺れ、弱くてもゆっくりとした長い揺れを感じたら」…すぐに避難!!「揺れが無くても津波警報を見聞きしたら」…すぐに避難!!

津波警報・注意報

津波による災害の発生が予想される場合には、地震発生後、約3分で大津波警報、津波警報または津波注意報を発表します。その後「予想される津波の高さ」、「津波の到達予想時刻」等の情報を発表します。

マグニチュード8を超えるような巨大地震の場合

「巨大」という言葉を使った大津波警報で、非常事態であることを伝えます

- 巨大地震の場合は、正しい地震の規模をすぐには把握できないため、その海域における**最大級の津波を想定して**、大津波警報や津波警報を発表します。これにより、津波の高さを小さく予想することを防ぎます。
- このとき、最初の津波警報では、予想される津波の高さを、「**巨大**」、「**高い**」という言葉で発表して**非常事態**であることを伝えます。



「巨大」という言葉を見たり聞いたりしたら、東日本大震災クラスの津波が来ると思って、ただちにより高い場所に避難しましょう!

正確な地震の規模が分かった場合

予想される津波の高さを、1m、3m、5m、10m、10m超の5段階で発表します



「津波の高さ」は津波がない場合の海面からの高さです。津波が陸上で崖などを駆け上った高さは、津波の高さの何倍にも達することがあります。

津波に関する情報

津波警報の発表後、沖合や沿岸の観測点で観測した津波の高さや到達時刻を発表します。

- 高い津波が来る前は、津波の高さを「観測中」として発表します。
- 沖合で観測された津波の情報をいち早く伝えます。

津波警報・注意報の分類と、とるべき行動

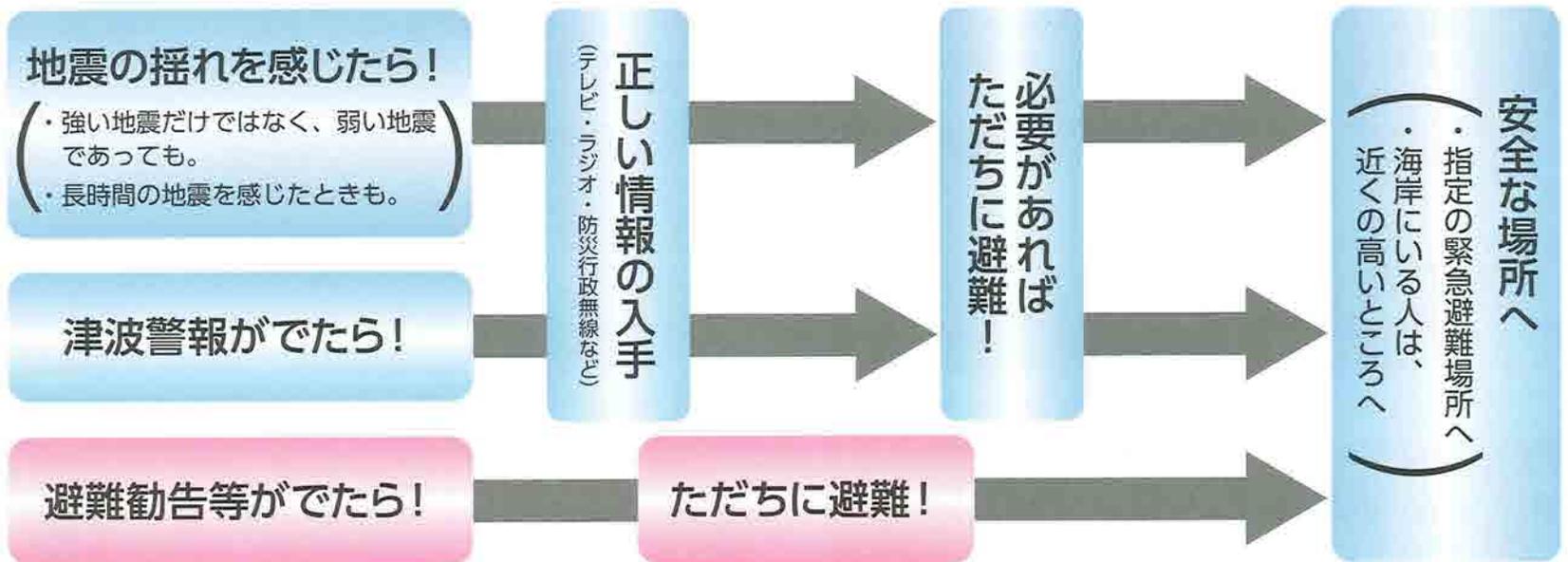
	予想される津波の高さ		とるべき行動	想定される被害
	数値での発表 (発表基準)	巨大地震の 場合の表現		
大津波警報	10m超 (10m<高さ)	巨大	沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難してください。津波は繰り返し襲ってくるので、津波警報が解除されるまで安全な場所から離れないでください。	木造家屋が全壊・流失し、人は津波による流れに巻き込まれる。
	10m (5m<高さ≤10m)			
	5m (3m<高さ≤5m)			
津波警報	3m (1m<高さ≤3m)	高い	ここなら安心と思わず、より高い場所を目指して避難しましょう!	標高の低いところでは津波が襲い、浸水被害が発生する。人は津波による流れに巻き込まれる。
津波注意報	1m (20cm≤高さ≤1m)	(表記しない)	海の中にいる人は、ただちに海から上がって、海岸から離れてください。津波注意報が解除されるまで海に入ったり海岸に近付いたりしないでください。	海の中では人は速い流れに巻き込まれる。養殖いかだが流失し小型船舶が転覆する。

※津波警報等の発表時には、各区分の**高い方の値**を、予想される津波の高さとして発表します。

(※気象庁ホームページより大部分を抜粋)

津波対策(2)

津波からの避難



避難する際の注意

<p>津波注意報でも、海辺や川べりには近づかないようにしましょう。</p>	<p>避難の際にはご近所にも声をかけあい、地域で協力し合う避難を心がけましょう！</p>	<p>お年寄りや体の不自由な方などの避難に協力しましょう。</p>	<p>避難は脱げにくい運動靴で避難する。長靴は水が入ると動きにくくなるので、はかない。</p>
<p>津波は繰り返し襲ってきます。必ずしも第一波が最大とは限りません。少なくとも津波警報が解除されるまで警戒が必要です。</p>	<p>水深が浅くなるほど、津波の高さは高くなります。またV字型の湾では急激に高くなります。</p>	<p>陸上に遡上した津波も早いので、津波を見てからでは逃げられません。</p>	<p>避難の際は非常用持ち出し袋を背負い避難するよう、日頃から備えましょう。</p>

15分退避ルール

東日本大震災では、避難誘導や水門閉鎖に当たっていた地区の役員、民生委員、消防職員や多くの消防団員が任務中に逃げ遅れ、津波の犠牲になりました。

震災後大槌町では、消防団の災害時活動ルールを定め、**津波到達予想時刻の15分前**には、**浸水区域からの退避**を決めました。

これ以上一人の犠牲者も出さないために「消防も逃げます」。

避難誘導にあたる方は、消防と同様に15分前の退避を厳守し、住民のみなさんには、消防などの15分前退避にご理解をいただき、津波警報などが発令された場合には、積極的な避難をお願いいたします。

わが家の防災対策&チェック

家の中の安全対策

事前に準備出来ているか、チェック☑しましょう。

1 家の中に逃げ場としての安全な空間をつくる

部屋がいくつもある場合は、人の出入りが少ない部屋に家具をまとめて置く。無理な場合は、少しでも安全なスペースができるよう配置換えする。



2 寝室、子どもやお年寄りのいる部屋には家具を置かない

就寝中に地震に襲われると危険。子どもやお年寄り、病人などは逃げ遅れる危険性がある。



3 家具の転倒を防ぐ

家具と壁や柱の間に遊びがあると倒れやすい。家具の下に小さな板などを差し込んで、壁や柱によりかかるように固定する。また、金具や固定器具を使って転倒防止策を万全に。



4 安全に避難するため、出入口や通路にもものを置かない

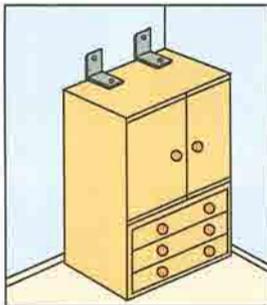
玄関などの出入口までの通路に、家具など倒れやすいものを置かない。また、玄関にいろいろものを置くと、いざというときに、出入口をふさいでしまうことも。



家具の転倒、落下を防ぐポイント

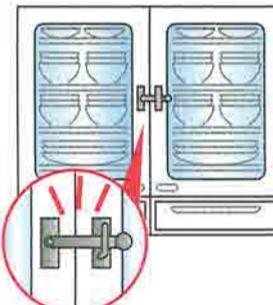
タンス・本棚

L字金具や支え棒などで固定する。二段重ねの場合はつなぎ目を金具でしっかり連結しておく。



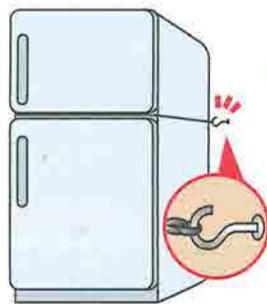
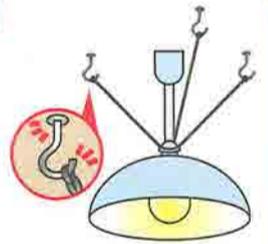
食器棚

L字金具などで固定し、棚板には滑りにくい材質のシートやふきんなどを敷く。重い食器は下の方に置く。扉が開かないように止め金具をつける。



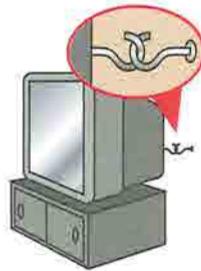
照明

チェーンと金具を使って数箇所止める。蛍光灯は蛍光管の両端を耐熱テープで止めておく。



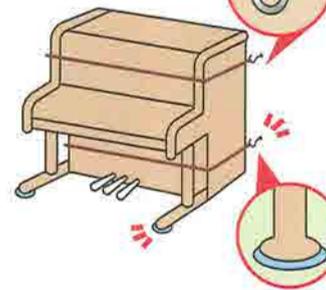
冷蔵庫

2ドアの場合は、扉と扉の間に針金などを巻いて、金具で壁に固定する。



テレビ

できるだけ低い位置に固定して置く(家具の上はさける)。



ピアノ

本体にナイロンテープなどを巻きつけ、取りつけた金具などで固定する。脚には、すべり止めをつける。

家の周囲の安全対策

事前に準備出来ているか、チェック☑しましょう。

屋根

不安定な屋根のアンテナや、屋根がわらは補強しておく。

ベランダ

植木鉢などの整理整頓を。落ちる危険がある場所には何も置かない。

窓ガラス

飛散防止フィルムをはる。



ブロック塀・門柱

土中にしっかりと基礎部分がないもの、鉄筋が入っていないものは危険なので補強する。ひび割れや鉄筋のさびも修理する。

プロパンガス

ボンベを鎖で固定しておく。

わが家の「防災・緊急情報」メモ

非常時・緊急時に連絡してほしい方や、利用してもらいたいわが家の情報です。
災害時に救助の方や、緊急時に救急隊・医療機関・町に情報を提供します。

世帯主氏名		電話	
住所			

避難場所	
家族が離ればなれになった時の避難場所	

家族構成 連絡先	氏名	生年月日	電話(携帯・会社・学校)	住所	メモ	

家族の 緊急情報・ 救急メモ	氏名	血液型	持病・アレルギー	持病薬	かかりつけ医療機関	

【メモ】 ※書ききれなかった内容や、知ってほしい情報(介護情報・救急隊員への伝言など)をお書きください。

緊急時 連絡先	氏名	間柄	電話	住所	メモ	

町指定緊急避難場所一覧

避難が必要になったときにはまず「避難場所」へ、その後は「避難所」へと状況に応じて速やかに行動できるように心がけましょう！

指定緊急避難場所

平成29年4月1日現在

NO	施設・場所名	住所	地図掲載場所		対象とする異常な現象の種類			指定避難所との重複
			地図番号	座標	洪水、崖崩れ、土石流、地滑り、内水氾濫	地震、津波、高潮	大規模な火事	
1	桜木町裏山	大槌町桜木町14(裏山)	9	B-4.5	×	○	×	
2	小籠神社裏山	大槌町上町2-16(裏山)	9	C-5	×	○	×	
3	中央公民館	大槌町小籠32-126	9	D-5	○	○	×	
4	大念寺裏山	大槌町上町1-8(裏山)	9	C-5	×	○	×	
5	蓮乗寺裏山	大槌町末広町7-14	9	D-4	×	○	×	
6	小枕高台	大槌町小籠28(小枕・仲松地区防集宅地)	8	B-4	×	○	×	
7	大槌稻荷神社(二渡神社)	大槌町安渡2-8-1	9	F-5	×	○	×	
8	大徳院	大槌町大槌26-24	9	E-4	×	○	×	
9	惣川高台	大槌町安渡3-13(高台)	9	F-5	×	○	×	
10	古学校高台	大槌町安渡3-8-11(林道安渡赤浜線方向)	9	F-5	×	○	×	
11	八幡神社境内	大槌町赤浜2-2	8	D-4	×	○	×	
12	3丁目高台	大槌町赤浜3	8	D-4	×	○	×	
13	吉里吉里学園小学部	大槌町吉里吉里2-4-1	10	D-4	○	○	○	○
14	吉里吉里学園中学部	大槌町吉里吉里1-215	10	D-5	○	×	○	○
15	吉里吉里地区体育館	大槌町吉里吉里1-1-1	10	D-5	○	○	×	○
16	天照御祖神社	大槌町吉里吉里3-2	10	D-4	○	○	×	
17	吉里吉里駅前広場	大槌町吉里吉里2-1	10	D-4	×	○	×	
18	集荷場裏山	大槌町吉里々々32地割地内(シーニックライン方面)	10	E-4	×	○	×	
19	花道児童公園	大槌町吉里吉里4-2	10	C-5	×	○	○	
20	門前(寺前)	大槌町吉里吉里4-4	10	C-4	○	○	×	
21	交流促進センター	大槌町吉里々々11-25	10	C-2	×	○	○	○
22	源水裏山	大槌町大槌14-133	9	C-4	×	○	×	
23	大ケ口裏山	大槌町大槌11(林道城山2号線方面)	9	B-3	×	○	×	
24	迫又団地高台	大槌町大槌15(大槌郵便局から上る)	9	C-3	×	○	×	
25	生井沢裏山	大槌町小籠26	7	F-4	×	○	×	
26	旧小籠小学校	大槌町小籠13-3	7	B-1	×	○	○	
27	桜木町児童公園	大槌町桜木町9	9	B-5	×	×	○	
28	大槌町役場庁舎	大槌町上町1-3	9	C-5	×	×	○	
29	大ケ口多目的集会所	大槌町大ケ口1-5-5	9	B-3	×	×	○	
30	大ケ口公園	大槌町大ケ口2-5	9	B-2	×	×	○	
31	かみよ稲穂館(渋梨分館)	大槌町大槌6-42	6	D-4	×	○	○	○
32	旧金沢小学校体育館	大槌町金沢29-19	4	B-4	○	○	○	○
33	小籠地区多目的集会所	大槌町小籠6-17-1	7	A-1	○	○	○	○
34	蕨打直集会所	大槌町小籠15-35-7	7	C-1	×	○	×	○
35	大槌高等学校	大槌町大槌15-71-1	9	D-3	×	○	○	○
36	白澤鹿子踊伝承館	大槌町小籠20-80	7	E-3	×	○	○	○
37	吉祥寺三光殿	大槌町吉里吉里4-4-7	10	C-4	○	○	○	○
38	金沢地区生活改善センター	大槌町金沢30-35-2	4	C-5	×	○	×	○
39	長井清流館(長井分館)	大槌町金沢33-23	5	D-2	×	○	○	○
40	大槌学園	大槌町大槌15-71-9	9	D-3	○	○	○	○
41	安渡分館・避難ホール	大槌町安渡2-11-1	9	E-4	×	○	○	○

町指定避難所・福祉避難所一覧

避難が必要になったときにはまず「避難場所」へ、その後は「避難所」へと状況に応じて速やかに行動できるように心がけましょう！

指定避難所

平成29年4月1日現在

NO	施設名	住所	地図掲載場所		対象とする異常な現象の種類			指定緊急避難場所との重複
			地図番号	座標	洪水、崖崩れ、土石流、地滑り、内水氾濫	地震、津波、高潮	大規模な火事	
①	小鍬地区多目的集会所	大槌町小鍬6-17-1	7	A-1	○	○	○	○
②	蕨打直集会所	大槌町小鍬15-35-7	7	C-1	×	○	×	○
③	大槌高等学校	大槌町大槌15-71-1	9	D-3	×	○	○	○
④	城山公園体育館	大槌町小鍬32-126	9	D-5	○	○	×	○
⑤	白澤鹿子踊伝承館	大槌町小鍬20-80	7	E-3	×	○	○	○
⑥	吉里吉里学園小学部	大槌町吉里吉里2-4-1	10	D-4	○	○	○	○
⑦	吉里吉里学園中学部	大槌町吉里吉里1-215	10	D-5	○	×	○	○
⑧	吉里吉里地区体育館	大槌町吉里吉里1-1-1	10	D-5	○	○	×	○
⑨	吉祥寺三光殿	大槌町吉里吉里4-4-7	10	C-4	○	○	○	○
⑩	交流促進センター	大槌町吉里々々11-25	10	C-2	×	○	○	○
⑪	かみよ稲穂館(渋梨分館)	大槌町大槌6-42	6	D-4	×	○	○	○
⑫	旧金沢小学校体育館	大槌町金沢29-19	4	B-4	○	○	○	○
⑬	金沢地区生活改善センター	大槌町金沢30-35-2	4	C-5	×	○	×	○
⑭	長井清流館(長井分館)	大槌町金沢33-23	5	D-2	×	○	○	○
⑮	大槌学園	大槌町大槌15-71-9	9	D-3	○	○	○	○
⑯	安渡分館・避難ホール	大槌町安渡2-11-1	9	E-4	×	○	○	○

福祉避難所

平成29年4月1日現在

No	施設名	施設住所	地図掲載場所	
			地図番号	座標
①	介護老人保健施設ケアプラザおおつち	大槌町小鍬14-82-1	7	C-1
②	グループホーム城山の杜	大槌町大槌15-5-1	9	C-3
③	吉里吉里保育園	大槌町吉里吉里21-60-8	10	D-5
④	大槌町デイサービスセンターはまぎく	大槌町小鍬23-86-4	9	A-5
⑤	小規模多機能型居宅介護事業所ほっとおおつち	大槌町大槌12-71-2	9	B-1
⑥	障がい者支援施設四季の郷	大槌町小鍬16-18-1	7	C-2
⑦	特別養護老人ホーム三陸園	大槌町吉里吉里32-18-25	10	F-4
⑧	特別養護老人ホームらふたあヒルズ	大槌町吉里吉里29-21-57	10	D-5
⑨	堤乳幼児保育園	大槌町吉里吉里2丁目2-2	10	D-4
⑩	まごころ就労支援センターおおつち	大槌町大槌7-9	6	D-4

避難場所、避難所とは？

避難場所と避難所(正式には指定緊急避難場所及び指定避難所)については災害対策基本法に定められています。概要については以下の通りです。

避難場所(指定緊急避難場所)

火災・津波・洪水・土砂災害など災害の種類に応じて定めた身の安全を守るための広場や高台です。一時的な避難場所であるため、飲料水や食料などの備蓄はされていません。

避難所(指定避難所)

立ち退き避難や災害発生などにより自宅に戻れない人が一時的に生活する施設です。防災倉庫等に食料や水、簡易トイレなどが備蓄されています。

福祉避難所(二次避難所)

避難所での生活が困難な高齢者や障がい者、妊産婦など、配慮を必要とする方を受け入れる施設です。

なお、福祉避難所は、避難生活の長期化に伴い、町(災害対策本部)が必要に応じて開設するものであるため、上記の避難所に直接避難することは御遠慮ください。